

ハンサムチャイルドシート取扱説明書

このたびは当社の製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

⚠ 警告

- この商品は適正な取り付けのため、自転車販売店で取り付けてください。正しく取り付けられていないままご利用された場合、ケガ、事故のおそれがあります。
- お客様の安全のために、ご使用になる前に必ずこの説明書をお読みください。読まれたあとは大切に保管し、必要に応じてご活用ください。
- 6歳以上のお子様を同乗させることは道路交通法違反となります。



— 目 次 —

●警告表示	2	6. 保管のしかた	11
●はじめに	2	●各部の名称	12
1. 乗車できるお子様の目安とキャリヤの制限	2	●チャイルドシートの操作方法	13
2. 取り付け時の注意	3	1. シートベルトの調整	13
●ご使用時の注意	4	2. バックルの固定・解除	14
1. お子様をチャイルドシートに乗せる前は	4	3. グリップの使い方	15
2. お子様をチャイルドシートに乗せるときは	5	4. ヘッドガードの使い方	16
3. 走行時は	7	5. フットレスト(足のせ)の高さ変更について	17
4. 幼児2人同乗時の注意	8	6. クッションおよび股ベルトパッドの交換	18
5. お子様をチャイルドシートから降ろすときは	10		

警告表示

警告表示は危険度・重要度の程度に応じて次の区分で表示しています。これらを守らないと事故につながったり、ケガをしたり、自転車が壊れるなどのおそれがあります。

表示の意味



警告

この表示の欄は、取り扱いを誤った場合、使用者が「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、取り扱いを誤った場合、使用者が「傷害を負ったり、物的損害を負う可能性が想定される」内容です。



禁止

この表示の欄は、「安全上してはいけない危険行為および保証範囲外の行為を表す」内容です。



強制

この表示の欄は、「使用者に必ず実行していただく」内容です。

はじめに

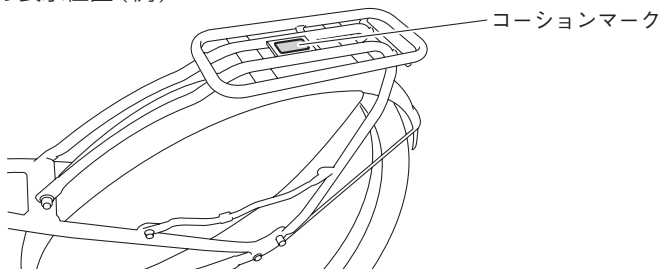
本商品をご利用にあたっては、以下に示すリヤキャリヤとお子様の制限をご確認の上、ご利用ください。

警告

- 推奨されていないリヤキャリヤへの組み付けや、制限体重を超えたお子様を乗せてご利用された場合、部品の早期破損折損が生じ、ケガ、事故になるおそれがあります。
- チャイルドシート取り付けの前にリヤキャリヤを点検してください。サビがひどい状態やグラつきがひどい場合は、リヤキャリヤを交換して取り付けてください。

1. 乗車できるお子様の目安とキャリヤの制限

- 本チャイルドシートは車体専用設計になっており、他の車種には取り付けができません。
- 乗車可能なお子様の体重（着衣を含む）について
8kg以上22kg以下のお子様に乗車可能です。（リヤキャリヤはクラス27）
＜参考＞ 使用年齢：2歳（24ヶ月）以上6歳（72ヶ月）未満
目安身長：70cm以上115cm以下
チャイルドシート重量：3.9kg
- 上記範囲以上のお子様を絶対に乗せないでください。上記範囲以上のお子様を乗せると自転車の安定性が損なわれるおそれがあります。安全に運転が出来ることをご確認の上、ご使用ください。
※リヤキャリヤのクラス表示は、リヤキャリヤ本体に刻印またはプレートに表記されています。
クラスの表示位置（例）



2. 取り付け時の注意

注意

- 本チャイルドシートは車体専用設計になっており、他の車種には取り付けができません。
- 安全にご使用いただくために、必ずお買い上げいただいた販売店で取り付けをお願いします。
- 自転車のリヤリフレックスリフレクタの後方からの視認の妨げにならないように取り付けてください。
- 走行中に自転車用錠が作動すると危険ですので、自転車用錠にお子様の手足が届かないように注意してください。
- 取り付け時は、ネジやナットを確実に締めてください。
- ドレスガードやロック付きの両立スタンドを取り付けてお使いください。
- 3人乗り（幼児2人同乗）のために前後チャイルドシートを取り付ける前には、自転車の表示や取扱説明書を確認し、取り付ける自転車が幼児2人同乗基準適合車であることと、装着するチャイルドシートが弊社指定のチャイルドシート（自転車の説明書をご参照ください）であることを確認してください。

ご使用時の注意

⚠ 注意

- 自転車にチャイルドシートを取り付けてお子様を同乗する場合、取り付けてない場合と比較して自転車のハンドル操作性、走行安定性、制動性能が低下します。
このため、事前に安全な場所で、十分に走行練習してからご利用ください。
- チャイルドシートのシール表示や取扱説明書をご確認の上、ご使用ください。

1. お子様をチャイルドシートに乗せる前は

⚠ 警告

- お子様の体重、年齢、身長等の範囲をお守りください。
- 本体、フットレスト、グリップ、ヘッドガードの取り付けネジ等が、しっかり締まっているか、日常点検を行ってください。
- 使用するときはチャイルドシート及びリヤキャリアが確実に取り付けられていることを確認し、破損・変形等したまま使用しないでください。また、シートベルトが傷んでいないか確認してください。少しでも異常を感じた場合は使用を中止し、販売店にご相談ください。
- お子様にはヘルメットを着用させて使用してください。着用しない場合、事故時に重傷あるいは死亡につながるおそれがあります。また、運転者もヘルメットを着用するようおすすめします。
- お子様には必ず靴を履かせてください。
- 夏の炎天下では、直射日光が当たるシートクッションの温度は高温となります。自転車を炎天下に放置した場合は、お子様をチャイルドシートに乗せる際、やけどに十分注意してください。
- 一般のシティ車に同乗できるお子様は1人です。また、3人乗り（幼児2人同乗）の自転車に同乗できるお子様は2人までです。それぞれの自転車で使用できるお子様の年齢、体重、身長の範囲を守ってください。
- スタンドが安定した状態で立っているか確認をしてください。またスタンドのロックがかかっていることも確認してください。
- 大きな衝撃が加わると破損・変形・クラック等が発生することがあります。一度でも大きな衝撃を受けた場合は使用をやめ、十分点検してください。また、販売店に点検を依頼してください。
- 特に、フットレスト部分は、このような衝撃に対してダメージを受けやすい部位となりますので、十分点検をおこなってください。

2. お子様をチャイルドシートに乗せるときは

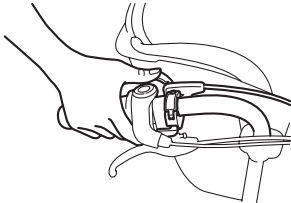
安全対策をした幼児2人同乗基準適合車でも、お子様の安全な乗せ方、降ろし方を行わないと思わぬケガをする恐れがあります。

お子様2人を同乗させる場合は、次の手順で行ってください。【ブリヂストンサイクル推奨例】

お子様1人に乗せる場合は、下記⑤⑥または⑦⑧を省略してお読みください。

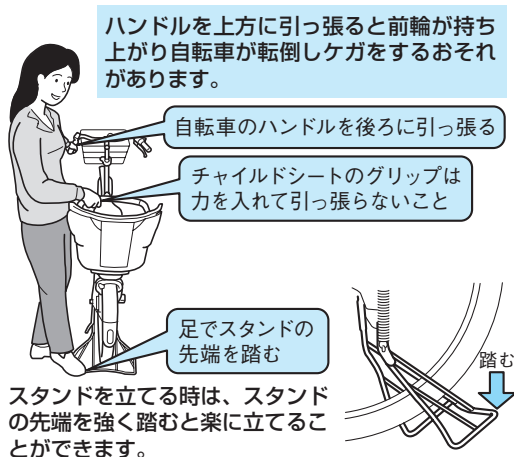
⚠ 警告

- ①お子様に乗せる前に、「テモトデロック」を操作し、ハンドルが回転しないように必ず※¹ロック（半固定）してください。



- ②自転車が転倒しないように、※²安定性のよい平坦な場所を選び、スタンドがしっかり立っていること、スタンドのロックがかかっていることを確認してください。

スタンドを立てる際は、チャイルドシートのグリップを引っ張らずに、自転車のハンドルを引っ張りながらスタンドの端を踏んで、てこの原理を利用して立ててください。

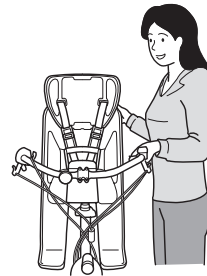


※³自転車を持ち上げる必要があるときは、リヤチャイルドシート（後幼児座席）のフットレストやグリップをもって持ち上げないでください。



- ③2人のお子様へヘルメットを着用します。

- ④保護者は自転車が倒れそうになった場合でも、すぐに手で支えられる位置に立っているようにしてください。



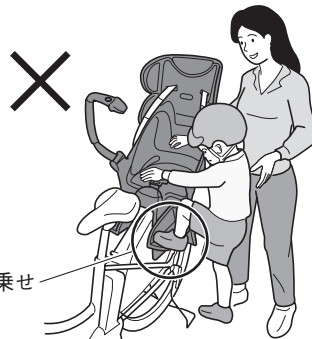
- ⑤まず初めに年長のお子様から先に、必ずしっかりと抱いて※⁴リヤチャイルドシート（後幼児座席）に乗せます。



自転車を炎天下に放置した場合は、お子様をチャイルドシートに乗せる際、やけどに十分注意してください。



お子様を抱いて乗せ降ろししてください。

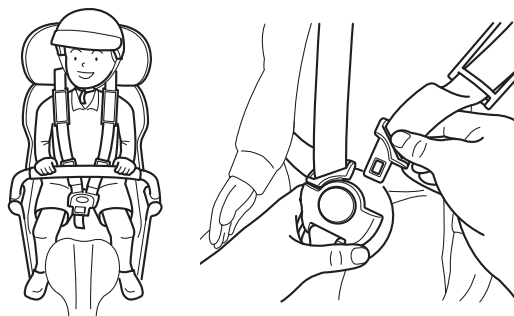


足乗せ

足乗せステップ（踏み台）としてご使用しないでください。

警告

- ⑥ お子様の後頭部をカバーするようにヘッドガードを調整し、シートベルトを確実に装着します。



お子様がチャイルドシートに着座したとき、ヘッドガード上端が頭部の中心より高くなるように調整してください。



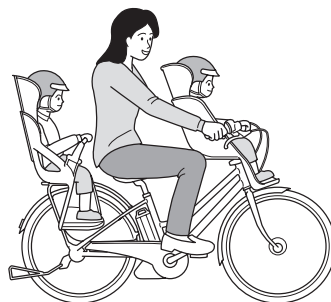
- ⑦ 次に年少のお子様をしっかりと抱いてフロントチャイルドシート（前幼児座席）に乗せます。

- ※1 「テモトデロック」はハンドルの回転を完全に固定するものではありません。
- ※2 傾いた場所で「テモトデロック」を解除した場合、路面の傾き等により不用意に自転車が動き転倒する恐れがあります。
- ※3 想定外の負荷により、フットレストやグリップが破損する場合があります。
- ※4 お子様をリヤチャイルドシートに乗せる際は、フットガード（足のせ部）に強い力を加えないください。
- ※5 バランスを崩した際にグリップから手が離れると、とっさに指をレバーのすき間などに挟む恐れがありますので、グリップをしっかりと握ってください。

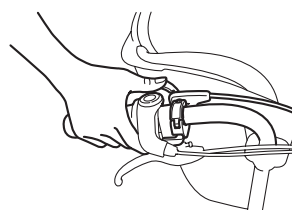
- ⑧ リヤチャイルドシートと同様にヘッドガードを調整し、シートベルトを確実に装着します。

- ⑨ スタンドを上げてから、保護者が自転車に乗ります。

※3 自転車を持ち上げる必要があるときは、リヤチャイルドシート（後幼児座席）のフットレストやグリップをもって持ち上げないでください。



- ⑩ ※5 ハンドルグリップをしっかりと握ってから、「テモトデロック」を操作し、最後にロックを解除します。



3. 走行時は

⚠ 警告

- 傘を差しながらの片手運転など、危険な行為は絶対にしないでください。



- お子様が乗車中はグリップを握らせてください。自転車のハンドルを握らせると、スキマに手・指をはさむおそれがあります。



- お子様が眠らないように注意してください。
- お子様が走行中に自転車用錠やベルトバックル、ベルトアジャスターを操作しないように十分注意してください。
- 段差のある場所ではお子様を乗せたまま走行しないでください。

- 走行中にお子様がチャイルドシートの中で立ち上がったり暴れたりしないよう、注意してください。



- 使用に当たっては交通法規を守ってください。
- お子様を乗せたまま自転車から短時間であっても手を離さないでください。自転車が倒れてお子様がケガをするおそれがあります。



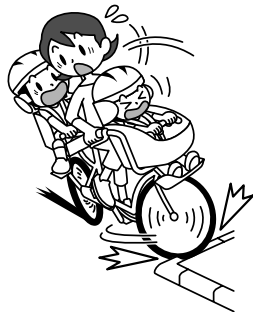
4. 幼児2人同乗時の注意

⚠ 警告（危険です、必ずお守りください！）

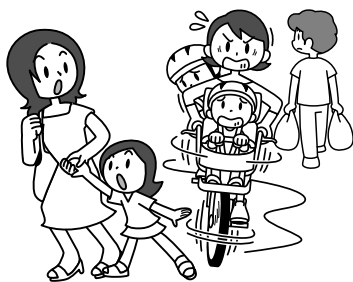
- お子様を2人同乗させて自転車に乗るときはスニーカーなど、かかとの低い靴をはいてください。また、スリッパや足から脱げやすい靴ははかないでください。
ペダルから足を踏み外すと、転倒する危険があります。
- フロントチャイルドシートによって、前方（特に下側）が見えにくくなります。このため、安全な場所で視界の確認をしてから使用してください。また、見える範囲の前方の障害物によく注意してください。
- お子様を2人同乗させた時は、自転車は同乗させない時に比べ運転しづらくなり、転倒する危険が増します。
 - ・ お子様の乗せ降ろしや自転車の押し歩き・走行を安全な場所で練習してから使用してください。
 - ・ 発進時や低速走行時には、ハンドルが振れることがあるので、特に注意してください。
- 道路に傾斜や段差や溝があるときはハンドルをとられやすいので、押して歩くか、ゆっくり注意して通過してください。

- お子様を2人同乗させた時は、自転車全体の重量が増えるので、ハンドル操作に大きな力が必要になり、押し歩き時にもバランスを崩し、自転車の立て直しができずに転倒しやすくなります。このため、下記に注意してください。
 - ・ ハンドルを急に切らないでください。

ハンドルを大きく切った際に、前輪が前または後に意図しない回転をして転倒することがあります。傾斜面や路面の凹凸があるところでは、特に起こりやすくなります。



- ・ 歩行者などとすれ違う際によけるときは、ハンドル操作などに注意してください。
狭いところを押し歩いたり、歩行者や自転車と接触したり、同乗させているお子様の動き、路面の凹凸傾斜などによりバランスをくずしやすくなります。



⚠ 警告（危険です、必ずお守りください！）

● バランスをくずしにくい押し歩きの方法

押し歩き時には同乗のお子様の動きや路面の凹凸・傾斜などによるわずかなバランスのくずれによって、自転車の立て直しができずに転倒することがあるので、お子様を自転車から降ろして押し歩きをしてください。

やむをえず、お子様を同乗させて押し歩きを行う場合には、転倒の危険がありますので、以下の事項を考慮して慎重に押し歩きを行ってください。

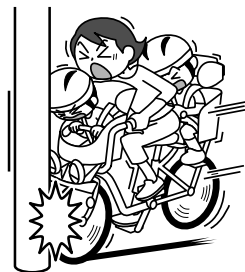


・自転車は垂直より少し手前に傾けて、ハンドルを握り、ブレーキがすぐにかけられるようにしてください。



- ・同乗のお子様が動かないように注意するとともに、路面の凹凸・傾斜などに注意して、バランスをくずさないようにしてください。
- ・押し歩きのための十分な空間がある場所であることを確認し、混雑した場所ではバランスをくずしやすいので、お子様を同乗しての押し歩きはやめてください。

- お子様を2人同乗させた時に衝突などの事故を起こした場合、自転車全体の重さが増えているので、同乗させないときに比べて衝突時の衝撃が大きくなります。このため、衝突などの事故を起こした場合は、同乗のお子様、運転者本人の被害が大きくなります。また、歩行者や物に衝突などの事故を起こした場合も、同じく歩行者や物の被害（けが）が大きくなります。



※以上のことは、お子様を1人のみ乗せた場合も同じですので、注意してください。

5. お子様をチャイルドシートから降ろすときは

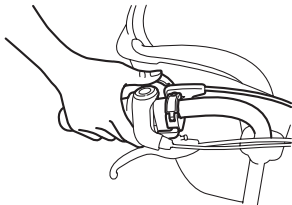
安全対策をした幼児2人同乗基準適合車でも、お子様の安全な乗せ方、降ろし方を行わないと思わぬケガをする恐れがあります。

お子様2人を同乗させた場合は、次の手順で行ってください。【ブリヂストンサイクル推奨例】

お子様1人を降ろす場合は、下記⑤または⑥を省略してお読みください。

⚠ 警告

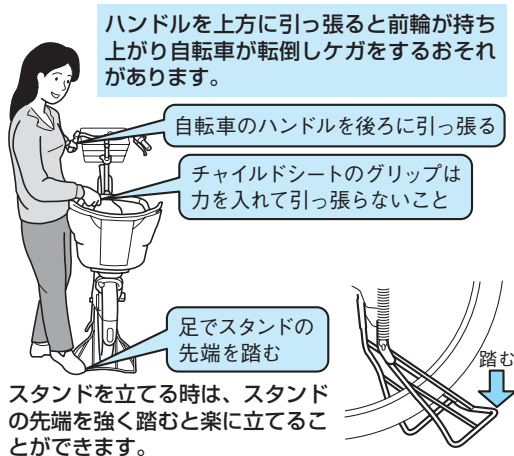
- ① お子様を降ろす前に、「テモトデロック」を操作し、ハンドルが回転しないように必ず※1※2 ロック（半固定）してください。



- ② 保護者が自転車から降ります。

- ③ 自転車が転倒しないように、※3安定性のよい平らな場所を選び、スタンドがしっかり立っていること、スタンドのロックがかかっていることを確認してください。

スタンドを立てる際は、チャイルドシートのグリップを引っ張らずに、自転車のハンドルを引っ張りながらスタンドの端を踏んで、てこの原理を利用して立ててください。

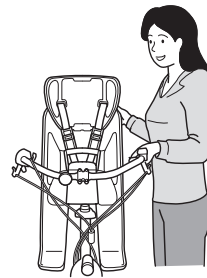


スタンドを立てる時は、スタンドの先端を強く踏むと楽に立てることができます。

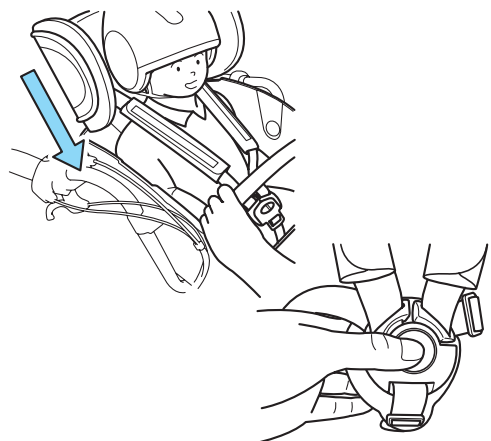
- ※4 自転車を持ち上げる必要があるときは、リアチャイルドシート（後幼児座席）のフットレストやグリップをもって持ち上げないでください。



- ④ 保護者は自転車が倒れそうになった場合でも、すぐに手で支えられる位置に立っているようにしてください。



- ⑤ フロントチャイルドシートのヘッドガードを下げ、シートベルトを外して、年少のお子様から先に、しっかり抱いて降ろします。

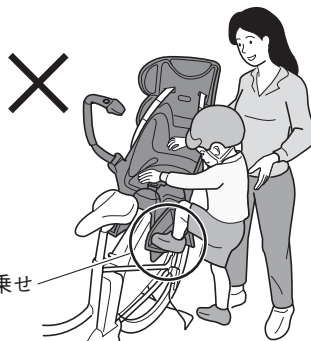


⚠ 警告

- ⑥次にリヤチャイルドシートのヘッドガードを下げ、シートベルトを外して、※5年長のお子様をしっかりと抱いて降ろします。



お子様を抱いて乗せ降ろししてください。



足乗せステップ(踏み台)としてご使用しないでください。

- ⑦お子様のヘルメットは最後に外します。

- ※1 「テモトデロック」はハンドルの回転を完全に固定するものではありません。
- ※2 バランスを崩した際にグリップから手が離れると、とっさに指をレバーのすき間などに挟む恐れがありますので、グリップをしっかり握ってください。
- ※3 傾いた場所で「テモトデロック」を解除した場合、路面の傾き等により不用意に自転車が動き転倒する恐れがあります。
- ※4 想定外の負荷により、フットレストやグリップが破損する場合があります。
- ※5 お子様をリヤチャイルドシートから降ろす際は、フットガード(足のせ部)に強い力を加えないでください。

6. 保管のしかた

⚠ 警告

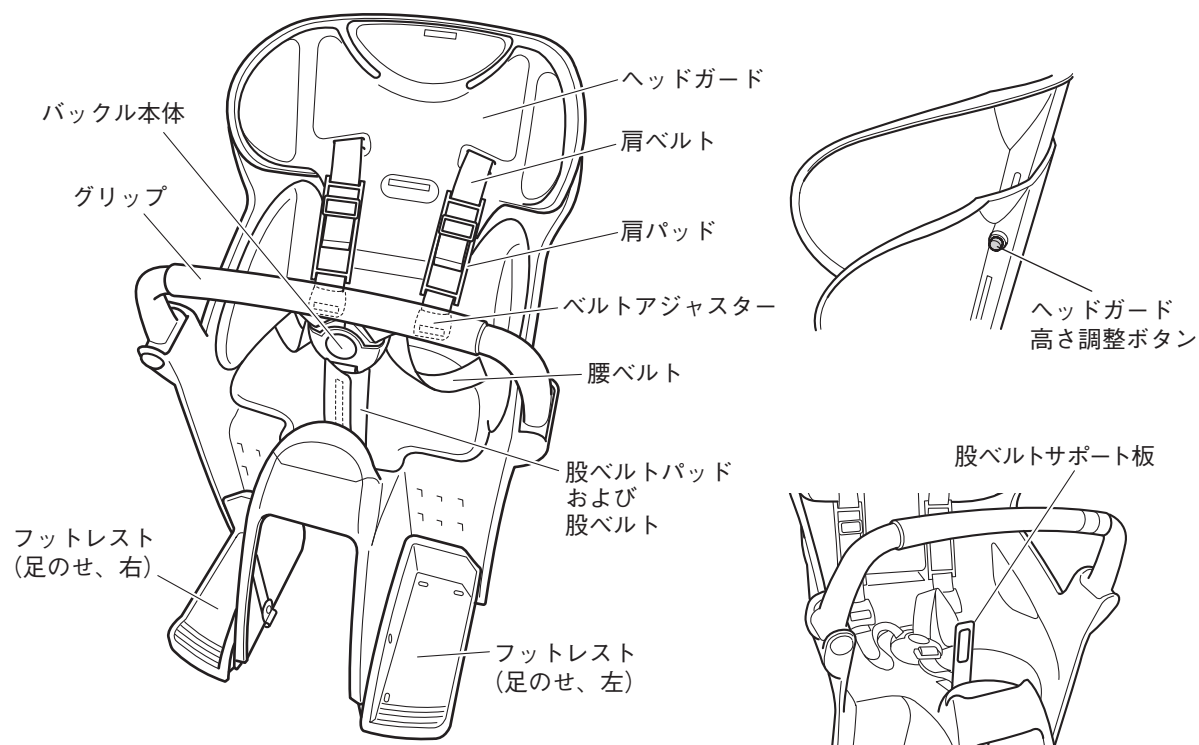
- シートベルトは消耗品です。異常がなくても2年に1度は交換してください。

⚠ 注意

- 駐輪時等で、自転車を持ち上げる必要があるときに、フットレストやグリップをもって持ち上げないでください。想定外の負荷により、フットレストやグリップが、破損する場合があります。
- チャイルドシートは直射日光をさけて駐輪、保管し、雨ざらしにしないでください。早期劣化の原因となります。



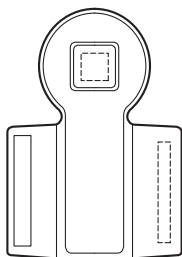
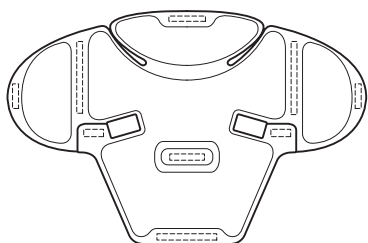
各部の名称



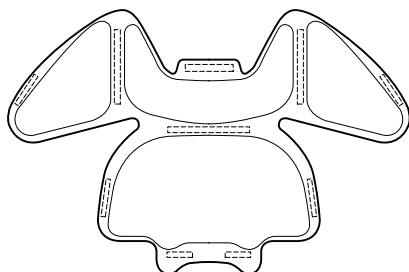
付属品
クッション1set

股ベルトパッド 1個

上側用



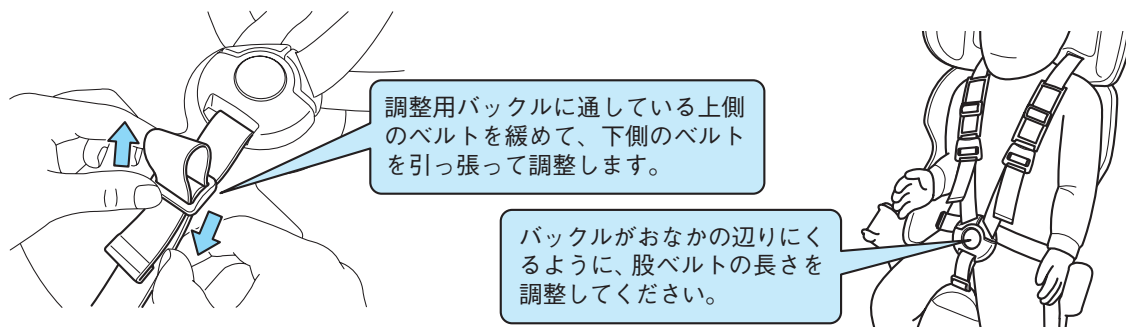
下側用



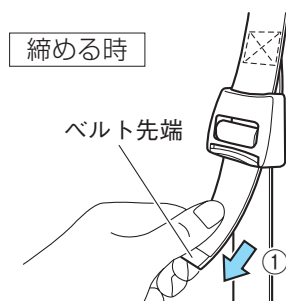
チャイルドシートの操作方法

1. シートベルトの調整

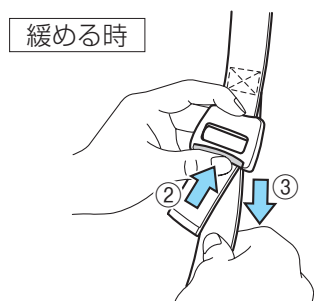
- シートベルトはお子様の体格や服装に合せて長さを調整してください。
- お子様を乗せた時には必ずシートベルトを装着してください。
- お子様を乗せていない時でもシートベルトのバックルをはめるようにしてください。(バタツキ防止のため)
- 股ベルト調整用バックルを操作して、股ベルトの長さを調節します。



- ベルトアジャスターを操作して、腰ベルトの長さを調節します。

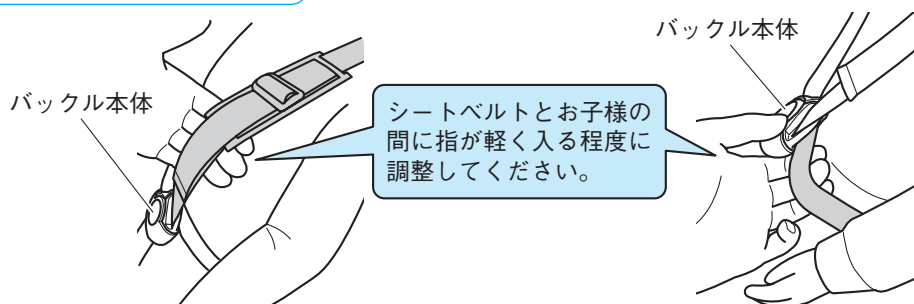


- ①腰ベルトのベルト先端を下方に引き出します。



- ②ボタン(赤茶色)を押します。
- ③上記②の状態のままで、もう一方の手で腰ベルトを引き下げます。

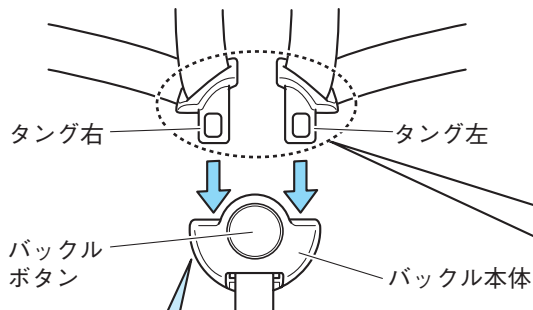
⚠ シートベルト調整時のポイント



2. バックルの固定・解除

- タングは左右別々に固定し、左右同時に解除することが出来ます。

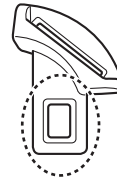
固定する時



タングはカチッと音がするまで確実に差し込みます。

タングは表面をバックルボタン側に向ける
(図はタング左、タング右も同様)

表面



裏面

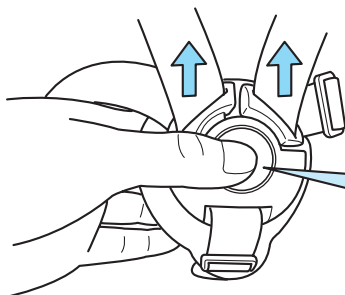


裏面は差込部の間中部に金属が見える

⚠ 警告

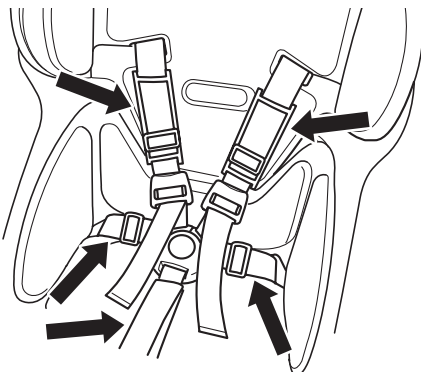
- タングを差し込んだら、左右のタングを軽く引っ張り、抜けないことを確認してください。

外す時



バックルボタンの中央部を押すと
左右のタングが外れます。

- ベルト長さ調整時及び使用時は肩、腰、股ベルトがねじれていないことを確認してください。



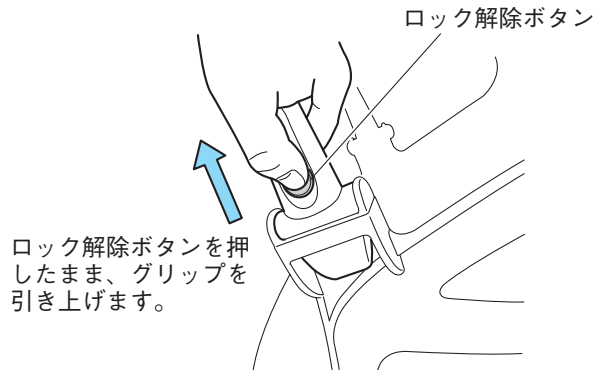
3. グリップの使い方

⚠ 注意

- グリップは自転車の左側から操作してください。
- 駐輪の際は、グリップを開きっぱなしにせず、必ず閉じてください。
- スタンドを立てるときは、グリップに無理な力を加えないでください。

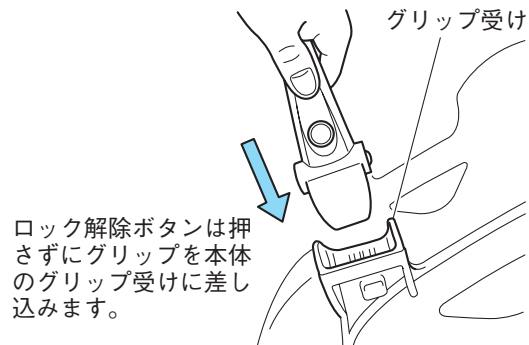
● グリップの開き方

グリップ左側のロック解除ボタンを押しながら、引き上げるようにグリップを開いてください。



● グリップの閉め方

ロック解除ボタンは押さず、グリップをそのまま本体のグリップ受けにしっかり差し込んでください。



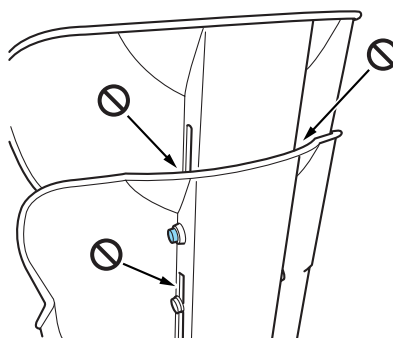
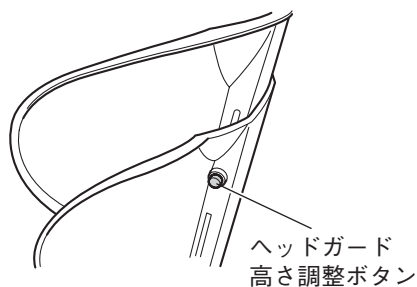
4. ヘッドガードの使い方

- ヘッドガードはお子様の体格に合わせて高さを調整してください(可動範囲は約12cm)。



- ヘッドガードを上下することができます。

- ①ヘッドガードの高さを高くするときは、ヘッドガード上部をそのまま引き上げれば調整可能です。
- ②ヘッドガードの高さを低くするときは、高さ調整ボタンを押しながらヘッドガードを押し下げます。



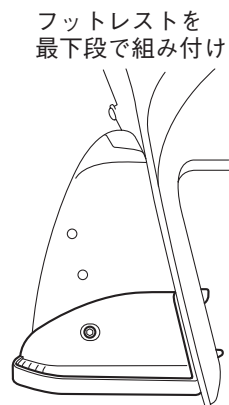
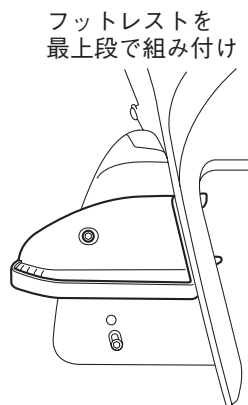
⚠ 注意

- ⊘→で指した隙間に指をはさまないようにご注意ください。
- お子様を乗せている時は、お子様の手などを隙間にはさまないようにご注意ください。

5. フットレスト(足のせ)の高さ変更について

⚠ 注意

- 高さ変更は販売店にご依頼ください。
- フットレストはお子様の体格に合わせて高さを変更することができます。(上下3段階)
本体にはフットレストを上下3段階に高さ変更できるようになっています。(下図は一番下組み付け状態)



- 調整方法は組付説明書をご確認ください。

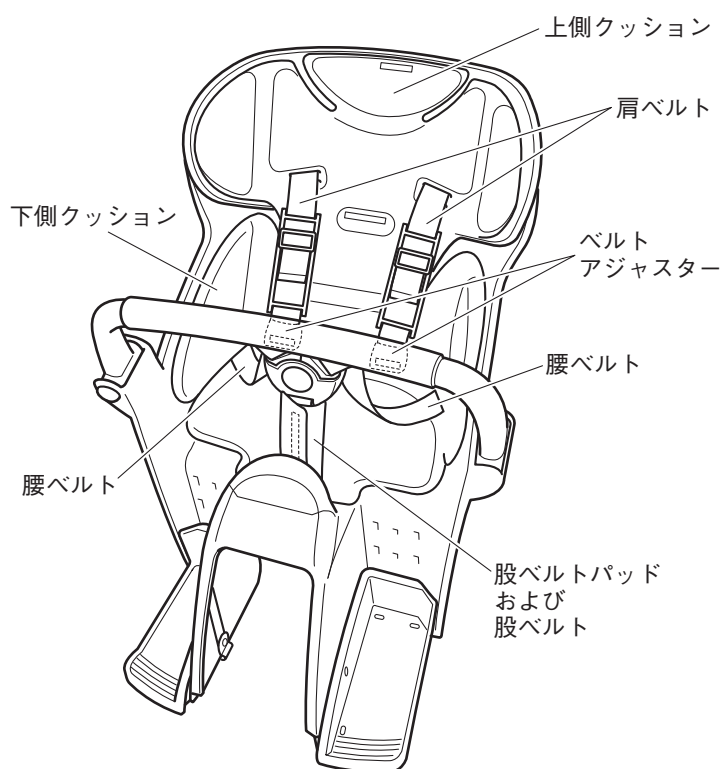
6. クッションおよび股ベルトパッドの交換

- お好みに合わせて交換することが出来ます。(交換用付属1set)

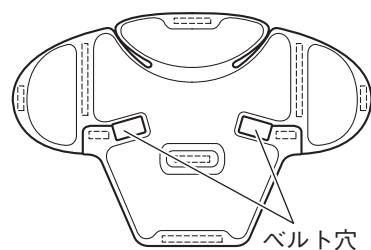
⚠ 注意

- 雨降り時にはクッションおよび股ベルトパッドに水が染込むことがあります。クッションおよび股ベルトパッドが濡れたときは、クッションおよび股ベルトパッドを乾かしてから使用してください。

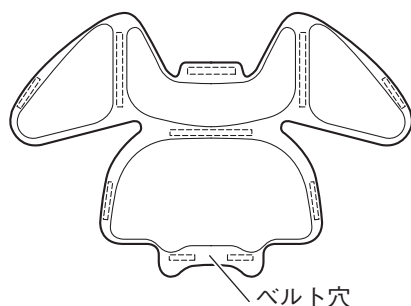
- 図のようにクッションをチャイルドシート本体のマジックテープへ貼り付けてください。



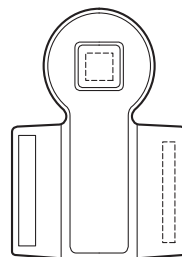
上側クッション



下側クッション

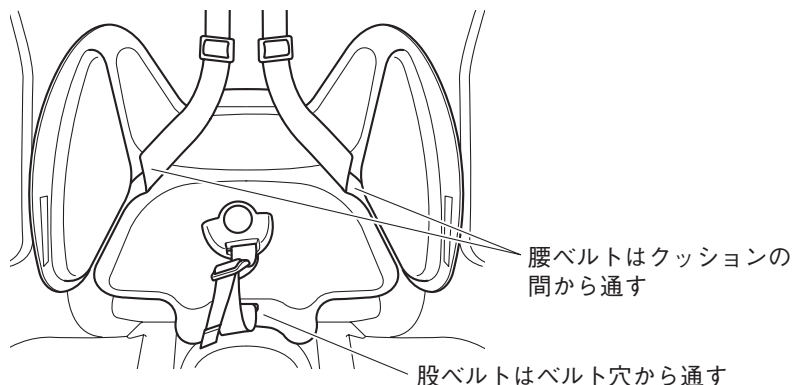


股ベルトパッド



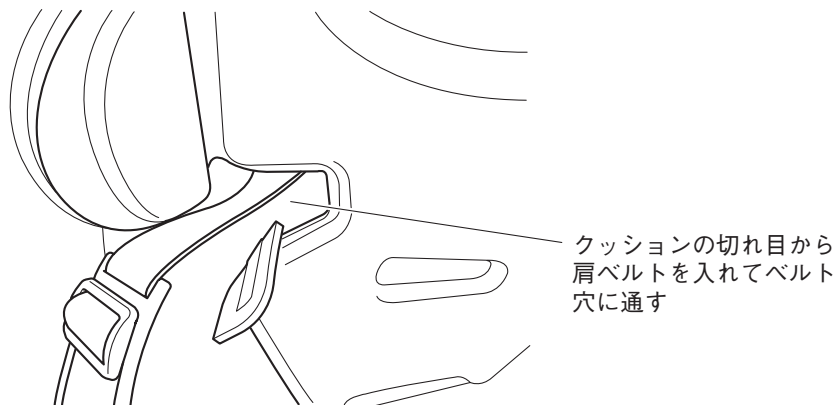
①下側クッションの取り付け

股ベルトをクッションのベルト穴に通し、腰ベルトをクッションの間から出してから、クッション裏側のマジックテープを本体のマジックテープに貼り付けます。



②上側クッションの取り付け

肩ベルトをクッションのベルト穴に通し、クッション裏側のマジックテープを本体のマジックテープに貼り付けます。



③股ベルトパッドの取り付け

股ベルトパッドをバックル本体裏のマジックテープに貼り付けてから、股ベルトに巻きつけるようにしてマジックテープで固定します。

マジックテープで貼付ける



ブリヂストンサイクル株式会社

〒362-8520 埼玉県上尾市中妻3丁目1-1

お客様相談室

受付時間：9:00～19:00

(日・祝日、及び弊社指定休日は休み)

フリーダイヤル：☎0120-72-1911

(国際電話・インターネット電話
でのご利用はできません)

IA01-399
18, G